

■当研究所の目指すところ

近自然（多自然）の川づくり ～治水と環境の両立を図る河川整備～

当研究所では、1980年頃にスイス・ドイツで生まれた「近自然河川工法」の考え方をもとに、治水と環境の両立を図りながら、より良い河川環境をつくっていくことを目指しています。

川づくりの方針

方針1 その川の良いところはできるだけ保全する

「川づくり」と言うと、“川をつくり変える”という印象を与えるかもしれませんが、近自然の川づくりの基本は、その川の良いところを“守る”ことです。

方針2 それぞれの川の特性を見極める

川にはそれぞれ特徴があります。また、同じ川でも上流と下流では“水と土砂の動き方”が違います。川づくりにあたっては、「その場所が、本来どういった環境になるのか」を確認してから対策を立てます。

方針3 「生物の多様性」のために、まずは「物理環境の多様性」を生み出す

生き物の生育・生息環境の基盤となっているのは、川の物理環境（河床材料の大小・流れの緩急・河床の凹凸など）です。この“物理環境を多様にする”ことが川の生態系を豊かにするために大切だと考えています。

方針4 川の営力を活用する

近自然の川づくりでは、川が自らの営力（流水による浸食・運搬・堆積の作用）で徐々に回復していけるように、“人間はその手助けをする”という視点で対策を考えます。

方針5 景観へ配慮する

昔は、その場所にある材料を使った工法で川を治めていました。その積み重ねがそれぞれの川の景観をつくってきたのです。近自然の川づくりでも、その場所の材料（石、木、植物など）をなるべく活用し、その川の景観に馴染むようにします。



■ 概要・代表経歴

代 表 : 有川 崇 (ありかわ たかし)

神奈川県出身

2002年3月 高知大学農学部生産環境工学科 卒業

2002年4月 株式会社 西日本科学技術研究所 入社

*主に近自然(多自然)の川づくり業務に従事

2015年8月 「近自然河川研究所」開所

<資格> 技術士 (建設部門: 河川、砂防及び海岸・海洋)

測量士

二等無人航空機操縦士 (マルチローター, 25kg 未満, 限定解除: 昼間・目視内)



所 在 地 : 〒781-5235 高知県香南市野市町下井901-8

T E L : 0887-50-1668

M A I L : arikawa@kinshizen-river.net

■ 事業内容

1. 河川環境改善のための調査・計画・設計・施工指導

- ①診断: 資料と現地調査から、その川の特性と問題点を洗い出します
- ②処方: 問題を解決するための計画策定、対策工の設計、現地での施工指導を行います
- ③メンテナンス: 定期的なモニタリングを行い、追加の対策の必要性などを判断します

2. 魚道の設計・施工指導

魚道の新設や既設魚道の改善にあたり、対象魚の遊泳特性や立地条件に応じて最適な魚道を提案し、その設計と施工指導を行います。主に現地発生の巨石を用いた「近自然魚道」や、魚類の遡上性・施工性・経済性にすぐれた「小わざ魚道」を扱っています。

3. 漁場の再生

長く「釣り場」として親しまれていた“瀬”や“淵”が、人為的な改変(ダム建設、護岸整備、架橋など)によって、無くなったり劣化したりする事例が増えています。なるべくその場にある材料を活用しながら、アユやアマゴなどの漁場としての“瀬と淵”を再生するお手伝いをします。



4. 近自然(多自然)川づくりに関する講演・研修の講師等

近自然(多自然)の川づくりの考え方や技術を、関係機関の方に向けてお話しします。それぞれの川の課題に合わせて、具体的な対策の事例や施工する際のポイントなどを説明するだけでなく、実際に川を見ながら現地で解説することも行っています。一般の方向けの講演や専門職の方向けの研修会などの講師も行っています。

5. ドローンによる空撮(写真・4K動画)

河川の現状把握やモニタリング調査では、ドローンを用いた空撮もしています。個別の空撮依頼も承っています。

- ・使用機: DJI社製 Phantom4 Pro V2.0, DJI社製 DJI Air 2S
- ・「無人航空機の飛行に係る承認」取得済 ※法令等により撮影できないエリアがあります
- ・賠償責任保険へ加入済
- ・二等無人航空機操縦士(マルチローター, 25kg 未満, 限定解除: 昼間・目視内) 技能証明取得済